



TITLE:

Ch. Boothノ死ヲ聞キテ

AUTHOR(S):

財部, 静治

CITATION:

財部, 静治. Ch. Boothノ死ヲ聞キテ. 經濟論叢 1917, 4(6): 935-944

ISSUE DATE:

1917-06-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127210>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號六第 卷四第

行發日一月六年六正大

論說

中壽ノ説(一).....	法學博士 財部 靜治
奢侈税ノ本質及其構造.....	法學博士 神戶 正雄
『座』ノ研究(三、完).....	文學博士 三浦 周行
東洋ニ於ケル古代ノ社會政策.....	瀧 本 誠 一

時事問題

船腹調節策.....	法學博士 戶田 海市
禁輸及關稅ニ依ル包圍攻撃.....	法學博士 神戶 正雄
米國ノ勞働缺乏ト日本移民.....	米田 庄太郎

雜錄

Ullityノ譯語ニ就イテ.....	法學士 小島 祐馬
海上保險發展史ニ關スル一異説.....	法學士 小島 昌太郎
山片蟠桃ノ米價論.....	法學士 本庄 榮治郎
精神の活力ト年齡.....	法學博士 河 上 肇
佛領亞弗利加植民地鐵道ノ現在及將來.....	山本 美越乃
Ch. Boothノ死ヲ聞キテ.....	法學博士 財部 靜治

Ch. Booth ノ死ヲ聞キテ

財部 靜治

一 大正三年ノ秋英京ニ入ルヤ一日日本人アリ
倫敦滞在數年頻リニ英國ノ誇ルヘキヲ説キ伯林
ヲ知リ巴里ニ通スルモ倫敦ヲ知ラスンハ共ニ文
明ヲ語ルニ足ラスト高談スルニ遇フ世界ノ知識
ニ通セサル一書生ノ身トシテ素ヨリ答フル所ヲ
知ラス退イテ數日數夜單身諸街ヲ散策シテ見聞
ヲ積ムカクテ再ヒ右同胞ニ遇ヒテ君英國事情ニ
通スルヲ以テ自任ス果シテ予カ一夜ノ行遊ニヨ
リテ得タル經驗英京木賃宿てん、べんす、ほて
るノ知識ヲ有スルヤト糾セルニ同胞答フル所ヲ
知ラス聞イテ啞然タリ。貧書生由來其分ヲ知リ
テ救貧問題ニ興味ヲ引クコト多年而モ亦右ニ説
クカ如キ心事ヲ以テ此問題ニ對スルニ當リ常ニ
敬慕シテ措カサリシ人ヤ誰、外ニモアラス英人

ちやゝれず、ぶゝす其人ナリ。

近日しかで大學經濟學雜誌 The Journal of Political Economy 本年二月號ヲ繙クニ客歲ぶゝす永眠セルヲ傳ユルト共ニ追悼ノ辭ヲ載ス今之ニ多少ノ補說ヲ加ヘ故人ノ德行ヲ偲ハント欲ス。

ニ ぶゝすハ一八四〇年りわゝぶゝるニ生レ同市ノ Royal Institute Schoolニ學クリ一八六一年以後ハ商會 Alfred Booth & Co.ノ仲間トナリ又海運會社 Booth Steamship Companyノ社長トシテ富豪ヲ以テ開エタリ而モ亦氏ヲシテ生前夙ニ大名ヲナサシメシモノハ之ニアラスシテソノ述作ニアリ就中多年ノ努力ヲ積ミテ初メテ大成サレシ大著ニアリソノ政見ニ從ヘハ制限社會主義 limited socialismトモ言フヘキモノヲトレリ詳言スレハ社會主義ノ傾向アリ乍ラ個人ノ諸力ト富ノ源泉トニ大制肘ヲ加フルコトヲ非認シタリ其當時すべんさゝノ門人トシテ文筆ヲ以テ世ニ立チ又氏ノ事業ヲモ補佐シタル今ノうゝつゝ夫人ノ所見ニヨルニ惟ヘラク實況ニ通スト

言フ範圍内ニ於テ氏ハ社會主義者タリ個人主義的刺戟ニ驅ラレテ經濟界ノ一新範圍ニ手ヲ觸ルルモ其突進ヲ進ムル毎ニ其刺戟ハ失ハレ行クハ如シト。

氏ハ一八九二年皇國統計學會ノ金牌ヲ受ケ九二乃至九四年ニハ其會長タリ其外一八九三乃至九五年ノ勅令老貧民委員會 The Royal Commission on the Aged Poor 一九〇四年ノ關稅委員會 The Tariff Commissionノ委員タリ又一九〇五年來一九〇八年不健康ノタメニ辭任セル迄勅令救貧法及貧民救濟委員會 The Royal Commission on the Poor Laws and the Relief of Distressノ委員タリキ一九〇四年ニハ樞密院ニ入レルカタメニ Right Honorableノ稱號ヲ得又皇國學會ノ會員タルト共ニおつくすふあるを、けむぶりつち、りわゝぶゝる大學ノ名譽學位ヲ授ケラレタリ一身ノ榮達斯クノ如シ而モ亦謙讓ノ德ハ氏ノ特別人格中最モ顯著ナルモノトシテ臨終迄貫カレタリト言フ之アルガタメニ氏自ラ貧困問題ニ關スル一改新叙述 a better statement

ent ノ計畫ト呼ヘル仕事ニ付幾多ノ模倣者ヲ生
メルヲ悦ヒタリ氏ハ一九〇二年ソノ尾卷ノ末尾
ニ多少ノ満足ヲ以テ書ケリ「不届不撓調査ノ精
神ハ行渡レリ予カ計畫ハソノ一産兒ニ外ナラ
ズ」The spirit of patient inquiry is abroad ; my
attempt is only one of its children ト其言ノ簡
又謙ニシテ意味何ソ深長ナル、後學任ニ調査研
究ノ責アル者徐ロニ氏カ事業ノ跡ヲ察シツ、此
言ヲ耳ニスル際誰カ其襟ヲ正サ、ル者アラン。

三 英米統計學者、經濟學者、社會學者其他
輓近社會問題研究者ニ貢獻スル所多カリシ仁者
ちやーれす・ぶーすノ事業ヲ了解又敬重セント
欲セハ一八八〇乃至九〇ノ十年中氏カ倫敦ノ貧
困ニ關スル統計ヲ集メ倫敦ノ貧民狀態ニ關スル
一大叢書ノ發刊ヲ企テシ當時ニ遡リテ少シク英
國事情ヲ繹ヌルノ要アリ。

英國前世紀前半ニ於テ一革進派ノ民權擴張運
動 The Chartist agitation 起リ世ヲ攪亂スルコト
甚シカリシト共ニソノ影響ヲ及ホス所多カリシ
ヨリ以來同國ニ於テ重ネテ又カカル社會大動亂

ヲ見タルコトナシト言フハ或ハ眞實ナラン而モ
亦一ノ社會不穩ハ八〇年代ニ起レリ其原因ハ多
カリシナランモ之ヲ勃發セシメタルハ一八八三
年ノ秋一都市委員ノ筆ニナリシ論文「棄テラレ
タル倫敦歎」The Bitter Cry of Outcast London
ノ出版ニアリ貧民悲酸ノ狀況ニ關スル誇張談ニ
充テシ際物本ナリシニ拘ハラス英人ノ對世間の
良心ハ之カタメニ覺醒セラレ着實ニシテ分別ア
ル人モ著シク其心ヲ動カサレ感情のナルハ社會
革命ヲ談スルニ至レリ。

言論文章ノ上ニテ「滅ビ行ク危險階級」The
perishing and dangerous classes「棄小舟ノ貧民」
The outcast poor ナトト呼ハレシ階級民ノ感情
ハ又 Sir Walter Besant (一八五八—一九〇二)ノ小説
「奴婢百種百態」All Sorts and Conditions of men
and Children of Gibeon ニヨリ刺戟サレタリ本
著ニ説ケル理想トソノ以前ニ氏ノ一小説中ニ描
寫サレシ理想的「喜樂宮」Palace of delight トハ
民心ヲ鼓舞シテ榮花ノ夢ニ耽ラシメンノ極迷ニ
夢ナラヌ一「貧民御殿」People's Palace ヲ The

mile-End Roadニ建テ勞動者ノ一大俱樂部トシテ藝術、娛樂、勉學、入浴、體操等ノ便宜ヲ備ハラシメンカタメニ寄附ヲ募リシニ釐金ハ容易ニ集マリ一八八七年女皇ニヨリ開館式ハ舉ケラレタリ特色アル英國社會主義者ノ團體組織ヲ見タルモ同シク八〇年代ナリキ社會民主黨聯合The Social Democratic Federationノ有名ナル宣言書カ Hyndman ニヨリ起草又發表サレシハ一八八三年ニアリ同年ニハ又ふあびあん協會ノ設立ヲ見タリ同十年間ニハ又其中心思想トシテ貧

者ノ眞改善ヲ計ル策ハ凡テ生命而モ其同胞ノ生命ヨリ發スルノ要アルヲ認メシ Canon Samuel Augustus Barnett 社會正義ノ福音ヲ説カンカタメニ保守主義ナルおつくすふおるど諸講堂ニ「豫言者トシテ臨ミ」其結果トシテ Toyndee Hall (一八八五年)及 Oxford House 其他庶多ノ古 English settlements モ開カレ志士特ニ大學關係者ノ市中道場トシテ貧者ト共ニ住ミ共ニ仕事スルノ趣旨ニ出テシ事業モ起レリ。

時好ニ投スルカ如キ倫敦貧困談ハ諸雜誌ヲ埋

メ其當時組織後日尙淺カリシ救世軍(一八七八年命名)ノ「大將」ニシテ本編主人公ト同姓ナリシ William Booth ハ初メテ「むす河畔 Lamb-ankment 其他公衆出入ノ場所ニ露天ノ眠ヲ貪レル幾多貧民ノタメニ援助ヲ求ムルニ至リ又救世軍經營ノ第一給養及宿泊所 Food and Shelter depot ハ一八八七年ニ開カレ」大將「カ一八九〇年ノ著書「暗黒ノ英蘭」 Darkest Englandニ説ク如キ方略ハ豊カナル寄附金ヲ得テ同旬年末迄ニ着手サレタリ。

一八八三年中四季評論中氣樂ナル諸階級ヲ煩ハセル社會的不穩ヲ論セシ一論者ハ痛言シタリ。「現今吾人ハ社會革命ノ精神ニ圍マルト説クノ陳腐ナルコト吾人ハ懷疑主義ノ精神ニ圍繞セラルト言フニ異ナラス」ト又一論者ハ古譬話中ニアルカ如キ貧者らざるすノ不幸ヲ眼前ニ見ルコトヲ認メ時事評論中 Lazarus at the Gateノ題下ニ一文ヲ公ケニシ「現下感情ノ一般潮流ハ世人ヲシテ輕舉暗愚ナル立法ヲ容レシム」ルニアリ之ヲ寛容スルハ非ナルヲ警告シツツモ尙承認

セル所ニヨルニ「現ニ時弊アリ又其弊モ大ナルカタメニ之ヲ匡正スルノ要アルヤ疑ヲ容レヌ細民階級ノ大部分カ其生活上多年惱マサレタル零落、退化ノ状態ニ就キ公共的良心ハ結局實質ニ覺醒セラレ遂ニソノ責任ヲ悟ルニ似タリ」ト。

倫敦ノ貧困ニツキ湧キ立タル人氣ハ政治上ニモ利用セラレ保守黨員中英蘭ハ今ヤ「煽動者ノ夢想世界ヲ送ルソノ世界ニ於ケル事々物々ハ悉ク轉倒セリ測リ知ルヲ得ス」ト觀想セル者ヲ生ミシモ同シク自由主義保守黨 Liberal Unionist 員トシテ有名ナル Joseph Chamberlain ハ「貧民ノ窮厄急迫シソノ日常生活落膽スヘク退化セルコト」英國史上未タ曾テ今日ノ如クナルハナキノ事實ハ之ヲ舉證シ得ヘシト昭ヘタリ氏ハ之カタメニ「統計ヲ手品ニ使ヒタリ」Playing tricks with statistics トノ識リヲ招キタルニ拘ハラス倫敦市民ハ驚愕ノ念ヲ以テ氏ヲ迎ヘ氏カ「輓近進歩カ生ミシ巨萬ノ富ハ幾多ノ財布ニ入レリ個人及階級民中貧慾ノ夢以上ニ富メルノ實ヲ擧ケシモノ少カラサルモ此富ヲ生ムニ預リテ力アリシ

勞苦者紡績工ノ大多數ハソノ富ニ就キ至當ノ利益ニ預ラス」ト議セルニ耳ヲ傾ケタリ。

四　チャールズ・ブーサカ徐ロニソノ調査事業ヲ始メシ當時背景タリシモノハ實ニ右時人ノ紛々タル對世間的感憤興起ニ存シタリ氏ノ叢書「倫敦平民ノ生活及勞働」Life and Labour of the People in London (本書第一版ハ僅カニ二卷及附錄一卷ヨリ成リ一八九二年ニ發行サマシノ題目チ Labour and Life of the People トシタリ就中 East London ニ關スル材料ノ大部分ハ其以前朗讀論文ノ形式ニヨリ倫敦皇國統計學會雜誌ニ發表サヘタリ即チ The Inhabitants of Tower Hamlets (School Board Division) Their Condition and Occupations ト題セル第一論文ハ一八八七年六月ノ同雜誌五十卷三二六—九一頁ニ Condition and Occupations of the People of East London and Hackney ト題セル第二論文ハ一八八七年六月ノ同雜誌五一卷二七六—三三二頁ニ掲載セリブーサカソノ第一論文朗讀後ノ討論ニ預リタルあるふれつ・ビ・モーしやる教授ハ唯今朗讀サレタル論文ノ如ク諸經濟學者ノ注目ヲ惹クヘキモノナシ大スルハ難カルヘシ」ト説ケルハ興味アルコトナリ氏ハ又言ヘリ事業完成サレンカソハ「經濟學カ樂キ立ツルノ材料タルヘキモノノ中獨歩ノ地位ヲ占ムルニ至ラン」ト近年ニ至リ全書安價版モ出サレタリ）編纂ノ大事業ハ其間着々トシテ進行

サレタリ乃チ其調査研究ハ一八八六年ニ初マリ
一九〇二年ニ終レリ其間「十七歳ヲ此調査ニ盡
シ又其結果ヲ載セントシテ盡セル冊數十七タ
リ」サレトソノ題目ノ掩ヘル範圍ハ宏汎ナリ弘
ク第十九世紀末葉ノ倫敦ニ於テ教育、宗教及行
政ニ影響サレシ暮シ向及産業ヲアリノ儘

they exist ニ寫シタレハナリ」トハ氏カ其尾卷

ニ書ケル所ナリ。監獄制度ノ調査研究ヲ以テ其
名今尙朽チサル John Howard (一七六九) 貧
民調査ノ典範ヲ垂レシヲ以テ令名アル Sir F.
daniel Eden (一七六六—一八〇九) 以來英蘭ニ於テ一
私人トシテ一社會調査ヲ遂ケンノ範圍ヨリスル
モ亦ソノ世間裨益ノ程度ヨリスルモ右「倫敦平
民ノ生活及勞働」ニ比肩セシムヘキ成果ヲ擧ゲ
シモノナシ。

五 氏ハ大著第一卷緒論中記シテ曰ク「貧民
カ仕事ニ就キテ感スル諸不便、貧困ノ諸弊ニ關
シテハ無力ノ一大感念伴ヘリ賃傭人ハ無力ニシ
テソノ勞働ヲ調節シ又彼等カ悦ヒテ授ケントス
ル仕事ニ付公平ナル對價ヲ得ル能ハス工業家又

ハ商人ハ一ニ競争ノ眼界内ニ働キ得ルノミ富者
ハ窮乏ヲ救フモ無力ナルカタメニ窮乏ノ源泉ヲ
肅清スル能ハス此無力ヲ救フノ第一着歩ハ貧困
ニ關スル諸問題ニツキ一改新叙述ヲ遂クルニア
リ」ト氏ノ計畫ハ實ニ此必要ヲ認メ又之ヲ充タ
スニアリキ。

ぶすハ一大事務家ニシテ學者ノ心掛及氣質
ヲ有シタルモ何レノ意味ヨリスルモ一ノ社會改
革家又ハ唱導家ニ非リキ職業ノ統計ヲ研究セル
モ倫敦ノ貧困ニ關スル統計蒐收ノ仕事ヲ始メン
當時未タ單獨ニ社會研究ノ範圍ニ推シ入ルコト
ヲ敢テセサリキ當時幾多ノ統計ハ改革家ニヨリ
テモノノ反對者ニヨリテ引カレタリト雖モ何人
モ之ヲ信用セサリキ四季評論ハ Hyndmanノ引
ケル統計ヲ攻撃シ評論カ舉證ノタメニ擧ゲシ計
數ハ又侮蔑的ニ理屈統計視セラレソノ誤謬ナ
ルハ倫敦市街ノ一散步ニヨリ指摘サレ得ヘキモ
ノトシテ」棄テラレタリ。

右十年中官廳ノ調査モ履行ハレタリト雖モ效
果擧ラス職工階級ノ住居ニ關スル勅令調査委員

會ハ失業、來住外國移民特ニ貧困猶太人、貧民救濟、すうえつちんぐニ關スル國會委員調査ニ次イテ遂ケラレ又官廳ハ赤貧階級ノ福祉ニ意ヲ注ケルニ拘ハラス同旬年ハ船渠勞働者大同盟罷工ヲフ社會紊亂ノ中ニ終レリ。

朋黨結社ノ情高調ニ動ケル時ニ當リ氏ハ朋黨ナクシテ其事業ヲ始メタリソノ目的トスル所ハ自己モ其一員タル諸有階級ニ對シ「事情ヲ陳述ス State the case ルコトニ存セス又市井ニ喧傳サル對世間處方ノ一ヲ贊成シ又ハ非難スル人々ノ說ヲ助クルモノノ意ニ非ス一意諸事實ヲ蒐集セント欲シタリ氏ヲシテソノ大調査ヲ企テシムルニ至リシ動機ヲ議シテ簡單ニ言ヘリ

東區倫敦ハ一カ―てんノ裏ニ隠サレソノカ―てんニ描ケル繪ハ悲慘目モ當テラレス其内ニハ餓エタル子、惱メル女、過勞ノ男アリ泥醉、罪惡ノ憂愁アリ、非人道ノ怪物、妖鬼アリ、疾病及絶望デフ大力アリ是等ノ繪ハ裏ニ隠サレタルヲ眞ニ代表セルヤ或ハソノ真相ニ對スル關係ハ田舎市ニ於テ時ニ

見世物小屋ノ外面ニ掲ゲシ繪カ内部ノ處作又ハ見世物ニ對スル關係ニ似タルモノナキヤ疑ハシサレハ吾人ハ此カ―てんヲ卷キアカント企テタリ

カクテぶ―すハ真相ヲ蔽ヒタル窓幕ヲ卷上クルコトニヨリ社會進步ノタメニ有害ナル際物主義ヲ摘發シ貧困問題ハ誇張サレタルコトヲ示サシコトヲ期シ「偏見モ偏セル目的モ否何等先入ノ斷定ヲモ持セスシテ」ソノ事ニ當レリ氏ハ第一卷初版中言ヘリ「予ハ調査ノ前後ヲ通シ事實描寫ニ當リ光明ヨリモ暗黒ニ過クルヲ選フノ方法ニヨリ安全ノ途ヲ踏メリコハ自ラ陰氣ナル見解ヲ養ハンカタメタラスシテ社會カ救治スヘキ諸弊ヲ控エ目ニ説クノ機會ヲ避ケントセルカタメナリ」トサレト其後ノ諸版ニアリテハ右ノ言明ハ姓名ノ頭文字〇、ヲ署セラレ一九〇二年ノ日附ヲ付セル一註ニヨリ訂正セラレタリ乃チ氏ハ説ケリ「予ハ疑ヒモナク此調査カ誇張ヲ吐露スヘキコトヲ豫期セルカ事實其通りナリキサレト肝カレタル貧困事實ハソノ人員ヨリスルモ

程度ヨリスルモ極メテ大ニ又絶對確實ナリシカハ予ハ漸次張叙セサランコトヲ同様勉ムルニ至レリト。

ふーすカソノ調査ヲ初メシハ Tower Hamletsニアリコハ東區倫敦ノ一區ニシテ氏ノ説ク所ニヨレハ「英蘭中最モ赤貧ナル人々アリ萬人ノ心情ヲ惱マセル富ノ中央ニ處シテサナガラ貧困問題ノ燒點ヲナス」カ如ク想像サレタル地區タリキ然ルニテ「むす河ノ對岸ニ一層悲慘ナル人民アリトハふーすノ發覺ニカカル一事ナリ東區倫敦ヨリ起レル」棄テラレタル倫敦歎」ヲ南區ヨリ發セシメナハ其歎一層劇シカリシナラン蓋シ其區内 Waterloo, St. Saviour's, Bernandsey 歴史的貧民窟タル Southwark ノ地區アリ古キ St. George's Church ノ四圍陋巷袋町綱ヲナシソノ境內ニハ古キ監獄 Marshalsea モ立テル所ニふーすカ發見セルハ頑冥不韙此上ナキ貧民衆ト呼ヘル者ニアリ南區内ノ諸所比較其他諸地區トノ比較ヨリセハ東區倫敦ハ引込ムヘク比較ノ結果ふーす自身ノ語ニヨリハ「St. Saviour's Southwark

ヲシテドンゾコノ王位 Wretched throne ニ就カシム」

ふーすノ名ハ諸社會改良運動特ニ英國ニ於ケル養老年金制期成計畫ニ關シ連テラレタリト雖モ氏ハソノ運動ノ當初此大貧困問題ニ付「事實ヲ鮮明」Better stated ナラシメ度希望以外ニ何等ノ目的ナキヲ言明シタリ詳言スレハ氏ノ目論見ハ「單ニ事實ヲ觀察記錄スルニ止メ諸救濟策ヲ講スルハ之ヲ他人ニ委ス」ルニアリキ一八九〇年ノ一卷初版中説ケリ

記載セル事實ニシテ若シ現存セル諸弊救濟策ヲ發見セントシ又ハ誤レル救濟策ノ採用ヲ妨クルタメ何事ヲカナサントスル諸社會改革家ニヨリ利用セラレ幾分カ之ヲ裨益スルモノアラハ予ノ目的ハ達セラル予自身ノ着想ヲ吐露セントスルハ予カ意向ニ非リキ所々特ニ末章ニ於テ予ノ目論見以上ノコトヲ敢テシタリトスルモノハ大ナル躊躇ノ下ニナサレタリ。

ト。一九〇二年ニモ此態度ニ立戻リツツ目立チ

テ謙遜ニ説キタリ

予カ附言セントスル最終語ハ外ナラス全部十八卷ノ目的トスル所第十九世紀ノ最終旬年ニ於ケル倫敦カ示セル實況其儘 *as appeared* ヲ寫スニアリキト言フコト之ナリ

ソノ以上ニハソノ諸狀況ヲ改善スルタメ何事ノナサレ居ルカヲ示サント不完全ナカラモ勉メタリ……疾病ノ療養ニツキテハ疾

病ノ特色、罹病程度及症候ニ關スル事實ヲ確カムルコト先ツ必要ナリ惟フニ一人ノ諸性格ニシテ克ク之ヲ認メ又克クカカル調査ヲ遂クルコトヲ許スノ餘裕アラハ少クトモ

其人ニハ高貴ナル精神、仁愛的聰明、崇高ナル確信備ハルニ至ルハ確カラシクカクテ又當然其人ヲシテ回生ノ一大先生トナスニ至ルヘシ

ト。同趣旨ノ下ブーオハ指摘セリ樂觀主義及悲觀主義ノ末ハ様々ニ分レ來ルトモ其源ヲ尋ヌレハ凡テ單純計數ノ見方ニ通リニ分ルルニ歸シ得ヘシト此見地ヨリ氏カ樂觀論者ヲ誡メシ所ニヨ

ルニ惟ヘラク東區倫敦ニ於テ赤貧ト數ヘラレ得ヘキ者住民ノ十分ノ一ニ過キストハ有望ト思ハレ得ヘシトスルモ尙忘ルルコトヲ許ササルハソノ絕對數ニアリト「記載セル住民中カカル窮乏生活ヲ送ル者ヲ數ヘ上ケテソノ數十萬戸數二萬ニ達シ其外又事實飢餓ニ迫ラストモ何等節約ノ餘裕ナキ者ノ數ソノ二倍ニ達スルコトヲ想起スル際ソノ描寫ニヨリテ誰カ戰慄セサランヤ」トハ其言ナリ。一面ニ於テハ又餘リニ悲觀スル人々ヲ誡シムルニ相對數ヲモ絕對數同様看過スヘキニ非ルヲ以テセリ乃チ氏ハ説ケリ

適正ノ判斷ヲ下サント欲セハ兩事ヲ銘心スルノ要アリ百分比ヲ考フル際絕對數ヲ忘レサルコト其一ナリ絕對數ヲ考フル際百分比ヲ忘レサルコト其二ナリ其人ノ日常經驗上又ハソノ腹想上個人生活ノ難關、悲哀明々白々ト眼前ニ映スル人々ニハ後者ヲ守ルコト困難ナリ彼等ハ是等ノ不幸ニ對シ同階級民否同民衆幸福ノ日月モ存スルコトヲ顯稱對照セシムルコトヲ拒ム況シテ其他諸階級

ノ運命ヲ勘定ニ入ルルコトヲ承認スルノ餘裕ナシ逆ニ偏セル計數ノミヲ積ミ得タトシテ貸方記入ヲ進ム貧苦ノ算術 the arithmetic of woe 上彼等ハ加法、乘法ヲ知ルノミニシテ引キ又ハ割ルコトヲ解セス世間ヲ動カスノ力ハ斯クノ如キ感情ノ熾烈ニ存シ統計ニ其力ナシサレト世間ヲ動カスニ公正ナルヘクハハカルカラ案内セシムルニ統計ヲ以テスルハ要アリ

六 我國大正初期ノ妻君戸別訪問ハ任期數年ノ「選良」ヲ生ミブーサノ採用ニカカル戸別訪問 House-to-House Visitation 調査主義ハ不朽ノ名著ヲ生メリ此名著ヲ大成セシメシ諸方法及其結果ノ大要ヲ伺フハブーサノ事業ヲ解スルノ目的上大ニ裨補スヘキモノアリ殊ニ其方法ノ詳説及評論並ニ之ニ類似ノ方法トシテ「社會店御」 Social stock taking ノ方法視セラレ「社會見分」 Social Survey ナル名目ノ下ニ米國自治體ニ於テ昌ンニ行ハルコト、ナリシモノヲ窺フハ本邦ノ現況ニ於テ必要又有益ナリト雖モ之

カ紹介評論ヲ他日二期シテ今ハ簡略ヲ勉メ單ニ右ノ一點ヲ擧ケ同一ノ形式モ亦之ヲ採用スルノ動機ニ公私、利仁ノ別アルカタメニ世ヲ益スル上ニ大差アルヘキヲ指示スルニ止ム。

今ヤ我邦船ニヨリテ富ヲ致セルノブーサ多クシテ調査ノ情熱モ亦朝野ノ間共ニ湧起セルニ似タリ而モ亦智情共ニ全クシテ又堅忍不拔克ク確實ノ民情調査ヲ遂ケントスルノ一ブーサハ必スシモ存セサルニ似タリ吾人ハ民間實ヲ公益事業ニ投セントシテ其使途ニ困メル資産家ニ對シ切ニ望ムブーサノ事業ニ倣ヒ又ブーサト共ニ The spirit of patient inquiry is abroad; my attempt is only one of its children ト語リ得ルノ心アルノ仁人タラン事ヲコハ實ニ大正時代ニ相應スヘキ一大「供養」タラン。